

## 予 算 要 求 資 料

令和 7 年度 3 月補正予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

### 事 業 名 【新】名古屋圏ぎふ農産物ブランド強化事業費（R 8 分）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産物流課 販売対策係 電話番号：058-272-1111(内4068)

E-mail：c11444@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 13,800 千円 (現計予算額： 0 千円)

#### ＜財源内訳＞

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	13,800	6,500	0	0	0	0	0	0	7,300
決定額	13,800	6,500	0	0	0	0	0	0	7,300

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨（現状と課題）

近年の混迷する国際情勢や自然災害のリスクの高まりから、より一層、県民に安全・安心で美味しい食料を安定的に供給するため、各品目の生産拡大を図るとともに、生産量の拡大に対応し、新たな流通ルートを開拓する必要がある。

新たな販売ルートとして、身近な大消費地である中京圏があるが、県の代表的な品目である飛騨牛の取扱販売店の割合は25%に留まっており、鮎についても、養殖鮎（愛知県出荷量全国1位）が溢れ、岐阜県産農畜水産物のブランド化が進んでいない。

また、当県は、都道府県魅力度ランキングで34位に低迷しており、今後、人口減少が進むと当県への観光客の減少が懸念される。

### (2) 事業内容

身近な大消費地である名古屋圏で、様々な角度からプロモーションを展開することで、県産農畜水産物の販路拡大とブランド力の向上を図るとともに、当県への関心を高め、誘客を促進する。

- ①飲食店のシェフ等を対象とした産地見学会の開催。
- ②飲食店等での「岐阜まるごとグルメフェア」の開催
- ③百貨店、量販店での「岐阜まるごと農産物フェア」の開催
- ④会社、大学等での「岐阜まるごと社食・学食フェア」の開催

### （３）県負担・補助率の考え方

県民に安全・安心で美味しい食料を安定的に供給するためには、農産物の生産量拡大とともに、販路開拓は必須であり、県負担は妥当

### （４）類似事業の有無

有

## ３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	95	プロポーザル評価委員報償
旅費	26	旅費費用弁償、業務旅費
需用費	639	サンプル食材、事務用品
役務費	40	電話・郵便代
委託費	13,000	コーディネーター設置、レストランフェア、百貨店等での岐阜県農産物フェアの開催等
合計	13,800	

## 決定額の考え方

## ４ 参 考 事 項

### （１）各種計画での位置づけ

ぎふ農業活性化基本計画(仮称・令和８年３月策定予定)

＜基本方針３＞-（２）-＜身近な大消費地・名古屋圏での販路拡大＞

### （２）国・他県の状況

国における支援メニューは無し。

各県、地域の事情に応じた農畜水産物のＰＲ、販売促進支援策あり。

### （３）後年度の財政負担

ぎふ農業活性化基本計画に基づくプロモーションを図るため、同計画期間中は継続。

### （４）事業主体及びその妥当性

事業主体：県

県産農産物のＰＲ、販売促進を岐阜県として実施するため。

事業評価調査（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

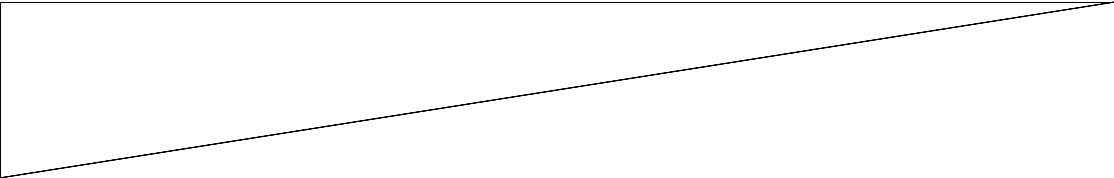
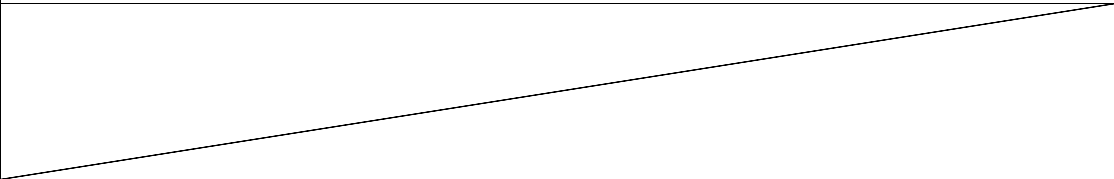
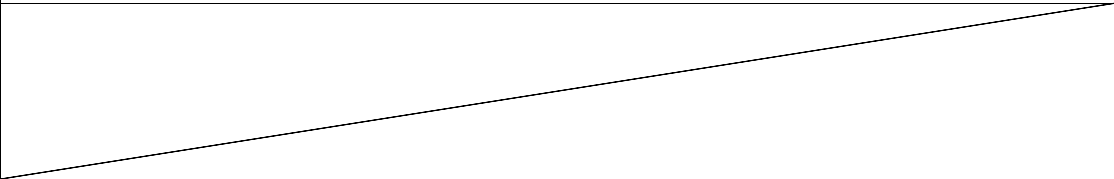
（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
名古屋圏で県産農畜水産物の認知度とブランド力の向上を図るとともに、県産農畜水産物の魅力を発信することで、名古屋からの当県への誘客を促進する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R7)	R8年度 実績	R9年度 実績	R10年度 目標	終期目標 (R12)	達成率
①名古屋圏における県産農産物を提供する店舗の拡大	0	0	40	60	80	—

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	 指標① 目標：— 実績：— 達成率：—%
令和5年度	 指標① 目標：— 実績：— 達成率：—%
令和6年度	 指標① 目標：— 実績：— 達成率：—%

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価)	県民に安全・安心で美味しい食料を安定的に供給するためには、農産物の生産量拡大とともに、新たな販路の開拓を進める必要がある。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価)	
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	

### (今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

### (次年度の方角性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	